

1 第2次札幌市都市計画マスタープランの目的

札幌市の目指すべき都市の将来像の実現に向けた取組の方向性を全市的視点から整理し、都市づくりの総合性・一体性を確保することを目的とするとともに、今後の協働の都市づくりを推進するために市民・企業・行政等が共有するものとする。

2 計画の構成

1	都市づくりの理念・基本目標など	今後重視すべき観点や、都市づくりの理念・基本目標など、都市づくりの基本的な考え方を整理
2	都市づくりの取組の方向性など	市街地区分ごとに進める総合的な取組の方向性と、土地利用・交通・エネルギー・みどりなどの部門別の取組の方向性を整理
3	実現に向けた体制・進め方など	今後の都市づくりを展開していくための市民・企業・行政等の担う役割や進め方を整理

3 計画の前提

目標年次	概ね20年後の平成47年（2035年）
将来人口	目標年次における人口を182万人と想定
対象区域	本市の行政区域

4 都市づくりの理念・基本目標

(1) 札幌の都市を取り巻く状況の変化とその課題（抜粋）

【人口減少・少子高齢化】	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年（2015年）頃をピークに人口減少へ 平成47年（2035年）には3人に1人が高齢者 生産年齢人口の減少による経済規模の縮小の懸念
【交通】	<ul style="list-style-type: none"> 人の移動（トリップ数）の減少 移動目的が、通勤・通学から私用へ転換 自動車依存率の高まり
【環境・エネルギー】	<ul style="list-style-type: none"> 平成2年（1990年）比でCO₂排出量が増加 家庭部門のエネルギー消費量が多い 再生可能エネルギーへの移行に向けた機運の高まり
【財政】	<ul style="list-style-type: none"> 生産年齢人口の減少による市税収入等の減少の懸念 社会保障費の増加や、公共施設・インフラ等の老朽化に伴う更新費の増加の懸念

(2) 今後重視すべき観点

現行都市計画マスタープランの考え方を踏襲しつつ、都市を取り巻く課題への対応や、前提としているまちづくり戦略ビジョンを踏まえ、札幌の都市としてあるべき姿を考える上で必要となる重視すべき観点を整理した。

- 新たな価値を創造し、成熟社会を支える都市づくり
- 持続的・効率的な維持・管理が可能な都市づくり
- 地域特性に応じたコミュニティの活力を高める北国らしい都市づくり
- エネルギー施策と連携し、環境と共生する低炭素型の都市づくり
- 災害等に備えた安全・安心な都市づくり

(3) 都市づくりの理念

現行都市計画マスタープランの理念である「持続可能なコンパクト・シティへの再構築」を踏襲し、まちづくり戦略ビジョンにおける都市空間創造のコンセプトである「S・L・I・M City Sapporo」を更に進め、今後重視すべき観点を踏まえたものを、新たな都市づくりの理念として整理した。

都市づくりの理念

(スマイルズ・シティ・サッポロ)

S・M・I・L・Es City Sapporo

～誰もが笑顔でいきいきとすごせるまちへ～

(4) 都市づくりの基本目標

【都市づくり全体】

- 高次な都市機能や活発な経済活動により、都市の魅力と活力を創出し、道内をはじめ国内外とつながり北海道をリードする**世界都市**
- 超高齢社会を見据え、地下鉄駅の周辺などに、居住機能と生活を支える多様な都市機能を集積することで、円滑な移動や都市サービスを楽しむことができる**コンパクトな都市**
- 自然と調和したゆとりある郊外での暮らしや利便性の高い都心・拠点での暮らしが選択できるなど、住まいの多様性が確保された**札幌らしいライフスタイルが実現できる都市**
- 公共交通を基軸としたまちづくりの推進や、新たなエネルギーネットワークの構築などによる**低炭素都市**
- 都市基盤が効率的に維持・保全され、都市活動が災害時にも継続できる**安全・安心な都市**

【身近な地域】

- **多様な協働**による地域の取組が連鎖する都市

5 総合的な取組の方向性

(1) 市街地区分ごとの将来像と取組の方向性（抜粋）

今後の都市づくりにおいては、「土地利用」「交通」「エネルギー」「みどり」など各部門の取組をそれぞれ進めていくことに加えて、各部門の取組が連携し総合的に取り組んでいくことが重要であることから、優先的・積極的に取り組んでいくものを都心、拠点、住宅地などに区分して整理した。

1 魅力があふれ世界をひきつける都心

- 将来像-
- ▶ 世界に誇ることができる環境性能を備えた災害に強い持続可能なまちが形成されています。
 - ▶ 都心の機能や魅力の向上に向けて、市民、企業、行政、まちづくり組織などが一体となった都心のまちづくりが進められています。
 - ▶ 札幌の資源や資産を生かして、新たな活動や産業を創造することができる場が創出されています。

-実現に向けた取組の方向性-

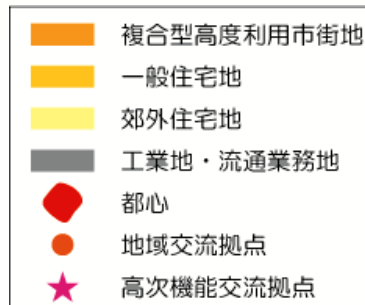
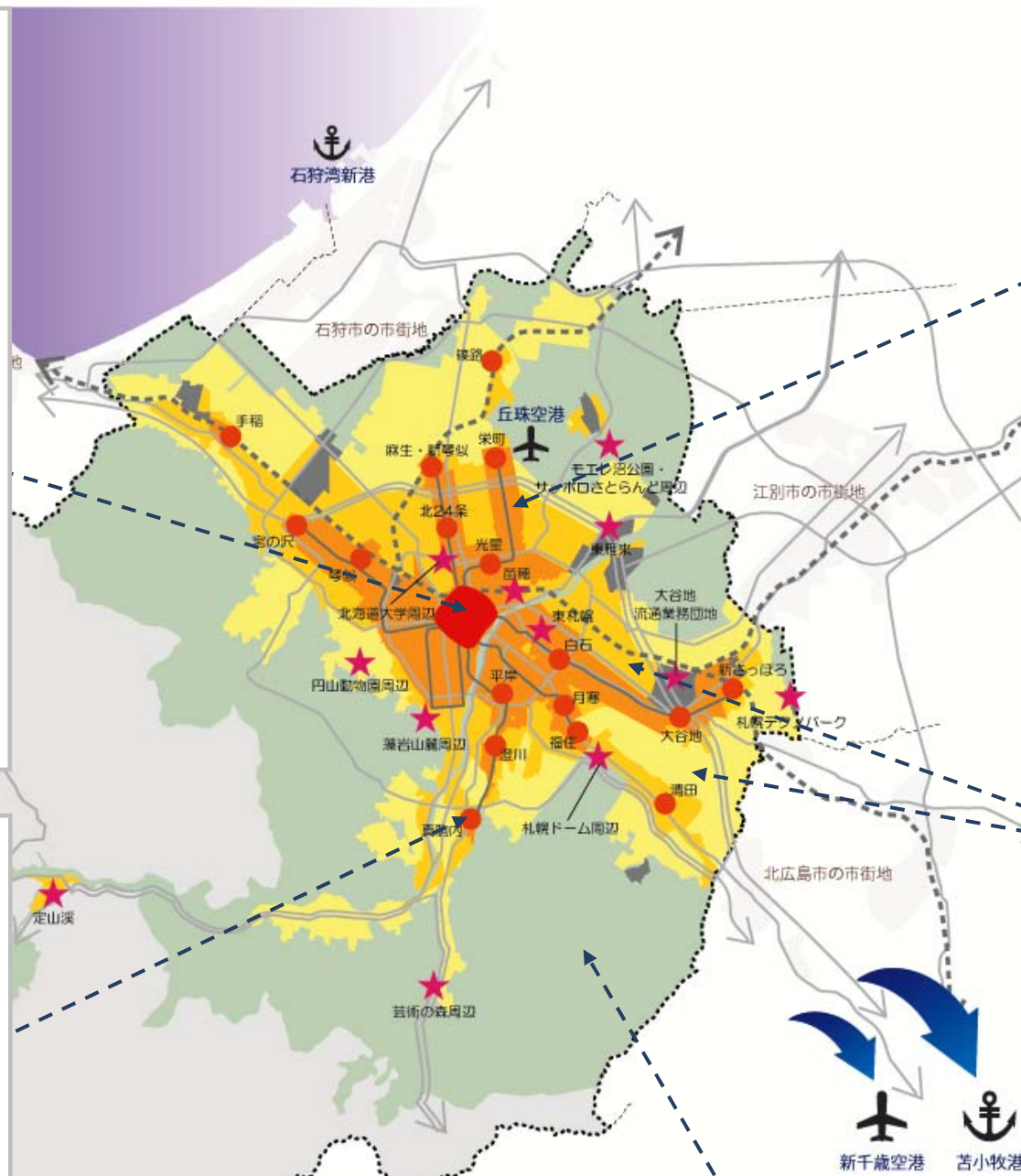
- A 都心強化先導エリアと札幌駅交流拠点、大通・創世交流拠点の形成**
- 都心強化先導エリア
- ・ 企業誘致の受け皿となる高次なビジネス環境の整備を促進します。
 - ・ 再開発や公共用地活用等によるエネルギーネットワークの形成を図ります。
- 札幌駅交流拠点
- ・ 駅前広場、北5西1、2街区の一体的整備による魅力的なシンボル空間の創出を図ります。
 - ・ 北海道新幹線、高速道路へのアクセス強化等を考慮した交通結節機能の強化を図ります。

2 多様な交流を支える地域交流拠点

- 将来像-
- ▶ 多様な都市機能の集積や拠点へのアクセス性の向上、冬でも安全・快適な歩行空間の充実などにより、利便性が向上しているとともに、多くの人が訪れることで様々なにぎわいや交流が生まれています。
 - ▶ 先行して取り組んだ拠点を参考にしながら、他の拠点でも機能強化や魅力向上に向けて具体的な検討が行われています。
 - ▶ 老朽化した建物の建替え更新時を捉えて、エネルギーネットワークの拡充に向けた具体的な検討が行われているほか、コージェネレーションシステムの導入についても検討が進んでいます。

-実現に向けた取組の方向性-

- A 各拠点の特性に応じて優先度を考慮した都市開発の誘導と基盤整備**
- ・ 地域交流拠点については、地域の実情に応じた機能集積や、既存の資源を活用した地域のまちづくりを図ります。特に、地下鉄始発駅などは、近隣の魅力資源や隣接都市、空港・港湾などとの連携を意識した多様な機能を整備するゲートウェイ拠点としての誘導を図ります。
- イ 拠点を中心とした交通機能の向上**
- ・ 拠点の特性に応じて、地下通路や空中歩廊など、季節や天候に左右されない、安全で快適な歩行環境の充実を図ります。
- ウ にぎわい・交流が生まれる場の創出**
- ・ 民間都市開発の誘導・調整を積極的に進めて、地域特性に応じたにぎわいや多様な交流が生まれる場（広場・公園など）の創出を図ります。



3 利便性が高く魅力ある複合型高度利用市街地の実現

- 将来像-
- ▶ 地下鉄駅の周辺を中心に集合型の居住機能や生活利便機能が集積し、人口密度の維持・増加が図られ、住民同士の交流やイベントが行われています。
 - ▶ 路面電車電停周辺の地区をモデルとした景観まちづくりの取組が地区の内外で連鎖的に展開され、地域特性に応じた魅力的な景観づくりが進んでいます。

-実現に向けた取組の方向性-

- A 高密度で質の高い住宅市街地の形成**
- ・ 地域の特性や状況に合わせて集合型の居住機能をはじめとした多様な都市機能の集積や、オープンスペースの創出、歩きやすさを重視した歩行者環境整備等を進めるために、土地利用計画制度を適切に運用します。また、人口が増えている地区においては、官民各々が管理する様々なオープンスペースを活用しながらみどりの確保を図ります。

4 地域特性に応じた一般住宅地・郊外住宅地の居住環境の維持・向上

- 将来像-
- ▶ 小学校では、建替えに合わせてまちづくりセンターや児童会館などの複合化が進み、地域コミュニティ拠点として、子どもからお年寄りまで幅広い世代間の交流が行われています。

-実現に向けた取組の方向性-

- A 良質な居住環境の維持・向上**
- ・ 地域固有の資源を活用するとともに、小学校へのまちづくりセンターや児童会館などの機能の複合化による地域コミュニティ拠点の形成や、移動利便性の維持や地域のニーズに対応した交通の実現などにより、良好な居住環境の維持・向上に向けた総合的な取組を検討します。

5 市街地の外の自然環境の保全と活用

- 将来像-
- ▶ 行政、市民、企業が一体となって様々な制度を活用することにより、みどりの保全・創出が図られています。
 - ▶ 市街地の外の高次機能交流拠点周辺では、地域の意向を取り入れながら拠点周辺の魅力向上を促す取組を進めることで、多くの人が集まり、交流やにぎわいが生まれています。

-実現に向けた取組の方向性-

- A 良好な自然環境の維持・保全・創出**
- ・ 拠点となる公園緑地をつなぐ森林・草地・農地などについて、地域制緑地などに関わる制度により保全を図るほか、市民や企業、活動団体などの協働により市街地をとりまくみどりづくりを推進します。
- イ 市街地の外ならではの特質を生かす土地利用の検討**
- ・ 市街地の外にある高次機能交流拠点周辺においては、それぞれの機能や魅力の向上に資するよう、地域特性を踏まえて周辺の景観にも配慮した限定的な土地利用の許容について検討します。

（2）地域交流拠点

17箇所ある地域交流拠点のうち、先行して取り組む4箇所については、それぞれの拠点の現状と今後の方向性を示し、その他13箇所については、拠点の特性に応じて3つのケースに分類し、現状や共通する今後の方向性を整理した。

《先行的に取り組む地域交流拠点の現状と今後の方向性》

新さっぽろ

現状	厚別副都心として大規模な商業機能や公共機能などが古くから集積しているとともに、JR・地下鉄・バスターミナルにより形成された交通結節点として、高い利便性が保たれています。
方向性	平成27年（2015年）3月に策定した「新さっぽろ駅周辺地区まちづくり計画」に基づき、市営住宅余剰地の活用などを柱として、多様な機能の集積や既存機能との相乗効果により、にぎわい溢れる拠点の形成を目指すとともに、江別市や北広島市などの広大な後背圏の生活を支えるゲートウェイ拠点として魅力あるまちづくりを推進します。

真駒内

現状	駅前には市有施設が集積し、生活拠点としての役割を果たしていますが、それぞれ老朽化が進みつつあります。また、真駒内地域を含め、南区全体で人口減少、少子高齢化が進行しており、地域全体の魅力を高めるためにも、拠点の機能等を向上する必要性が高まっています。
方向性	平成25年（2013年）5月に策定した「真駒内駅前地区まちづくり指針」の実現に向け、市有施設の建替えを契機に、周辺地域と連携し、駅前地区を中心とした滞留・交流空間等の充実とともに、定山渓や芸術の森といった高次機能交流拠点はもとより、南区全体の魅力向上に資する拠点の形成を図ります。

篠路

現状	鉄道により東西市街地が分断されていることに加え、駅東側のせい弱な社会基盤施設、土地の低利用などの課題を抱えており、駅を中心とした拠点の整備が必要となっています。
方向性	平成26年（2014年）3月に策定した「篠路駅周辺地区まちづくり実施計画」に基づく土地区画整理事業や鉄道高架事業などの社会基盤整備を契機として、拠点としての機能・魅力向上に向けて取り組みます。

清田

現状	拠点の中心には区役所・保健センター・消防署・図書館が備わった複合庁舎が立地し、その周辺には商業施設や病院などの機能が集積しています。また、清田区には軌道系公共交通機関がなく、最寄地下鉄駅までのルートを中心にバスネットワークが形成されています。
方向性	短期的には、バス待ち環境の改善など、公共交通サービスの利便性向上に努めます。将来的には、拠点機能の向上のために、効果的な取組を展開していきます。

《その他の地域交流拠点の現状と今後の方向性》

地域動向の変化に応じてまちづくりを進める拠点		
ケース1	現状	<p>【琴似】 多様な都市機能が集積しているとともに、バスターミナルが備わった地下鉄駅とJR駅が近接しており、高い利便性が保たれています。周辺には区役所等の公共施設が立地しているほか、地域のまちづくり活動などにより、まちづくりの機運が高まりつつあります。</p> <p>【白石】 バスターミナルがあり交通利便性の高い拠点であるとともに、平成28年度には、白石区役所・区民センターなどが複合した白石区複合庁舎や、庁舎と地下で接続される大型民間施設が供用開始となり、利便性の向上が期待できます。</p> <p>【北24条】【光星】【月寒】 拠点を中心に多様な都市機能が一定程度集積していることに加え、北24条、月寒にはバスターミナルがあり、利便性の高い拠点が形成されています。また、それぞれの拠点の周辺には区役所や体育館等の公共施設が立地しています。</p>
	方向性	主に区役所や公営住宅等の公共施設、大規模民間施設の建替え更新などの動きがみられるなど、地域の動向が変化しつつある拠点では、これらをきっかけとして地域のまちづくりに発展できるよう、地域住民や事業者などとまちづくりの方向性を共有し、交流機能や回遊性の向上を考慮した整備とまちづくり活動の一体的な取組が図られるよう働きかけます。
後背圏を支えるための取組を進める拠点		
ケース2	現状	<p>【麻生・新琴似】 地下鉄始発駅である麻生とJR新琴似駅が近接し、後背圏につながるバスも充実しており、交通利便性の高い拠点が形成されています。また、周辺には病院などの医療機能が集積しています。</p> <p>【栄町】【福住】 栄町にはバス待合所と駐輪場からなる交通広場、福住にはバスターミナルがあるとともに、それぞれ大型商業施設が立地し、利便性の高い拠点が形成されています。また、栄町周辺には丘珠空港やつどーむが、福住周辺には札幌ドームといった特徴的な施設が立地しています。</p>
	方向性	主に後背圏を支えるための取組が必要な拠点では、ゲートウェイ拠点としての機能強化など、それぞれが抱える地域課題を踏まえ、行政が誘導しながらまちづくりを展開していきます。
まちづくりの機運を高めていく拠点		
ケース3	現状	<p>【宮の沢】 地下鉄駅と接続されているバスターミナルや大型商業施設、市有の教育文化施設などが立地しており、利便性の高い拠点が形成されています。</p> <p>【手稲】 拠点の周辺には、大型商業施設が立地しているほか、区役所や体育館、図書館などの公共施設が立地しており、駅を中心に多様な機能が集積しています。</p> <p>【大谷地】【平岸】【澄川】 拠点を中心に一定の都市機能が集積しているほか、大谷地にはバスターミナルが備わっており、利便性の高い拠点が形成されています。</p>
	方向性	当面、施設の建替え更新などの動きがみえない拠点では、町内会や商工会、地域の任意団体などが行うまちづくりの継続的な取組を通じ、地域コミュニティや商店街などの活性化を図るとともに、まちづくりの機運を高めていきます。

6 部門別の取組の方向性（抜粋）

都市づくりを進めていくに当たり、「土地利用」「交通」「エネルギー」「みどり」などの部門ごとに、基本方針や取組の方向性を整理した。

(1) 土地利用

<市街地>

- 市街地の範囲は現状の市街化区域内とすることを基本とします。
- 複合型高度利用市街地では、集合型居住機能と多様な生活利便機能が集積し、良好な都市景観やオープンスペースを有する住宅市街地の形成を目指します。
- 一般住宅地では、戸建住宅から集合住宅までの多様な居住機能や生活利便機能が、地域の特性に応じて相互の調和を保ちながら維持される住宅地の形成を目指します。
- 郊外住宅地では、戸建住宅を主体としながらも一定の生活利便施設を有し、地域コミュニティが持続できる住宅地の形成を目指します。

<都心>

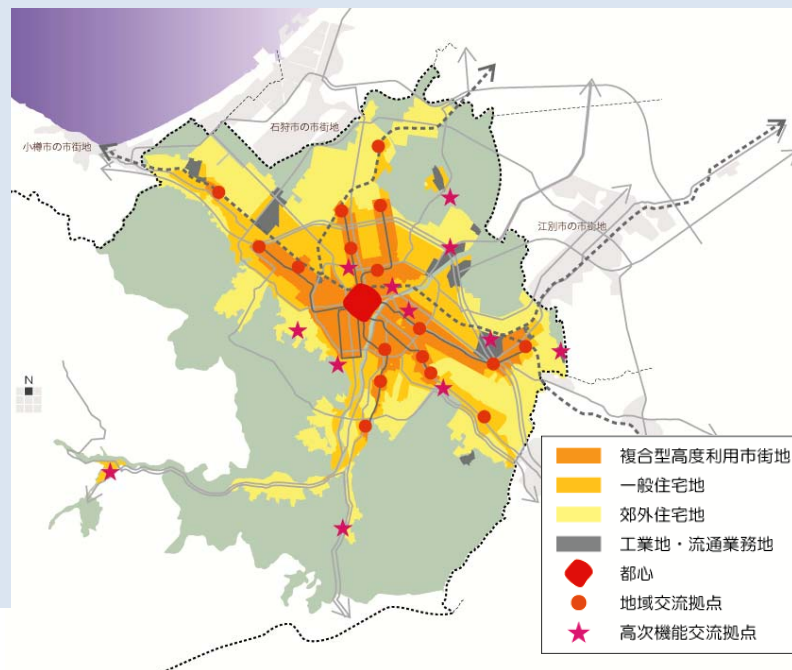
- 国内外から活力・投資を呼び込む高次な都市機能の集積や都心の象徴的な公共空間の効果的な活用、災害に強いエネルギーネットワークの形成などを進めます。

<地域交流拠点>

- 区役所などの公共機能や、商業・業務・医療・福祉などの多様な都市機能の集積を図るとともに、これらの都市機能を身近に利用できるよう、居住機能の集積を促進します。また、にぎわいや交流が生まれる場を創出します。

<市街地の外>

- 良好な自然環境や優良な農地を保全するとともに、新たな市街地の形成は原則行いません。
- 市街地の外の高次機能交流拠点周辺においては、機能や魅力の向上などに資するよう、市街地外周を森林・農地等が取り囲むという特質を生かし、周辺の景観にも配慮した土地利用のあり方について検討します。



(2) 交通

<公共交通ネットワーク>

- 各拠点へのアクセス機能の向上など、都市づくりの目標を支える観点から地下鉄など軌道系交通機関をはじめとした公共交通ネットワークの活用を図ります。
- 各交通機関の相互連携による乗継機能の適正な維持と改善、利便性の向上など、公共交通の質的充実を図ります。

<道路ネットワーク>

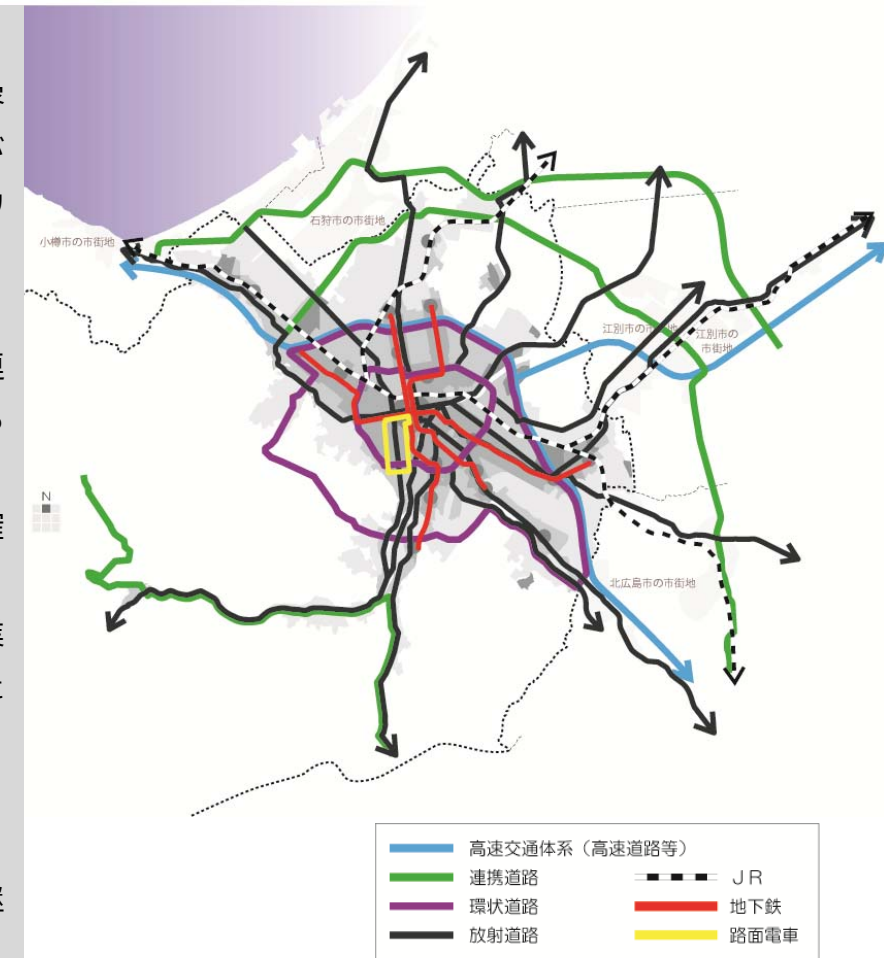
- 周辺都市や市内の各地域の拠点へ容易に到達でき、それらの拠点相互が有機的に連結するよう道路ネットワークを構成します。

<広域的な交通ネットワーク>

- 国や北海道、周辺市町村などとの連携により、空港、港湾およびそれらへのアクセス並びに鉄道、高速道路、主要幹線道路など広域交通機能の確保・充実を図ります。
- 北海道新幹線の1日も早い札幌開業を目指すとともに、開業を見据えた広域交通ネットワークの強化を図ります。

<地域特性に応じた交通体系の構築>

- 安全で快適な歩行空間の確保や乗継利便性の向上などを検討します。



(3) エネルギー

<効率的なエネルギーの面的利用の推進>

- 都心部を中心としたエネルギーネットワークの強化・拡大を図ります。
- 拠点におけるエネルギーネットワークの拡充について検討します。
- 環境負荷の低減とともに、災害時における安定的な都市活動の継続に資する取組を推進します。

<再生可能エネルギーの活用>

- 太陽光発電をはじめとした多様な再生可能エネルギーの導入・拡大を図ります。
- 広域的な再生可能エネルギーの活用を促進します。

(4) みどり

<市街地のみどり>

- 都心部では、重要なみどりの軸である大通公園をはじめ、公有地や民間開発などにあわせてみどりを保全・創出し、札幌の顔にふさわしいみどり豊かな景観を形成します。
- 都市機能の集積や人口動態など、地域の状況に応じたみどりづくりを推進します。

<市街地の外のみどり>

- みどりの保全や創出による、骨格となるみどりづくりを推進します。
- 身近な森林・農地等の保全と活用を図ります。